

経営、学識、労働による三者構成

JPC創設前史〈下〉

■労組の考え方が変化

労働組合は、イデオロギ

郷司浩平が1953

年の欧州視察で感銘を

受けたことがもう一つ

ある。労組の考え方が

戦前と大きく変わって

いたことだ。西ドイツ

で郷司は労組幹部と会

合を重ねた。

「かつてのドイツの労

郷司浩平（1900～1989）。1972年から1986年までJPCの第3代会長を務めた。



働者の日常の生活を改

善するための経済団体

である、という原則を

もって貫かれている、

そういった考え方を懇

々と聞かされた。（「郷

司浩平回顧談」）

日本と同じ敗戦国。

その西ドイツが奇跡的

と言われる復興を果た

したのは、労使が利害関係を超えて一つの目的を持ったことにあ

る。労組の経営参加と

いう進歩的な枠組みの

中でも、労組の根本原

理が、経済主義に一貫

していること、「これ

こそがドイツ再建の力

ぎである」と郷司は認

識を新たにした。

識を新たにした。

■労資協力で経済再建

たのが、TUC（イギ

郷司は西ドイツに続

リス労働組合会議）。

これが一番協力した。

【参考文献】『生産性運

性協議会を前身とする

英国生産性協議会を訪

英国生産性協議会を訪

産性本部、2005年）

＊

今日、日本生産性本

部は経営と学識、そし

て労働の三者で構成さ

れている。その源流が

ここにある。

（文中・敬称略）